

堀先生の退職によせて

経済学部講師 増 井 淳

私が堀先生のご指導を賜るようになったのは、大学3年生のゼミからであった。当時、大学院への進学を念頭に置きながらもゼミ選びに悩んでいた私は、「大学院に行くなら堀ゼミがお勧めだ」という先輩の言葉を頼りに応募し、所属させていただくこととなった。その頃は、先生がどれほど素晴らしい業績を上げておられるかも分からず、ただ先輩の言うことを素直に聞いた訳だが、この決断が正しかったと後に実感したことは言うまでもない。1年後に大学院に進学したため学部のゼミに所属した期間は短かったが、同期同士や先輩との繋がりが強く楽しいゼミであったことを憶えている。

学部のゼミには多くの学生が所属していたため、直接お話をすることは少なかったが、大学院進学後は研究テーマの設定や修士論文の執筆で個別に指導していただいた。研究テーマを模索する中で、私は堀先生のご専門とは異なる労働市場の分析に関心を持ってしまったが、毎週のゼミでは熱心に話を聞いていただき、本質を突いた鋭い指摘を頂戴した。そうした指摘に大いに感心すると同時に、自分なりに時間を費やして考え抜いた論理の穴を指摘されて悔しい思いをしたこともしばしばであった。もちろん、そこでの経験が現在の教員生活で存分に活かされている。私が博士課程に在籍していた時に先生は学部長に就任されたが、ご多忙の中でもお仕事の合間を縫って博士論文の指導をしていただいた。この場を借りてあらためて感謝申し上げたい。

その後、堀先生が創価大学に移られたことが縁となり、私自身も創価大学で教鞭を取らせていただくことになったが、教員になってからも先生の前では一学生に戻り、緊張した面持ちになったものである。また、学部生時代に先生の講義を受講したことがなかった私にとって、教育に対する先生の姿勢を拝見することができたのはとても貴重な経験であった。これは学生から聞いた話であるが、講義の内容について質問を受けた先生は、次の講義までに資料を用意し、ご自身の考えを述べられたそうである。ともすると現在の知識のみで質問に回答しがちな私は、この話に強く感銘を受け、学生への接し方を考え直すことにした。創価大学時代の堀先生とのお付き合いを通じて、今後、教員として研究・教育活動を行っていく上での基礎を築くことができたと感じている。先生が掲げられていた「研究に裏打ちされた教育」という信念を私も受け継ぎ、それを体現するべく精進していく所存である。

2013年3月に創価大学を退職された後、堀先生は悠々自適な生活を送っておられるようである。次にお会いする時には、トレッキングやスキー、溪流釣りと、多彩な趣味をお持ちの先生に、人生を楽しむ秘訣をご指導いただきたいと思っている。